

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	(有限会社) ユースフル	評価実施年月日	平成22年2月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月9日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>「人格の尊重、楽しみの在る空間作り、私達は、この開かれた地域に愛され信頼されるグループホームを目指します」と独自の理念を作りあげている。</p>	○	<p>今後も理念に基づき地域の方々に愛され信頼されるグループホームを目指し取り組んでいきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>各フロアー、スタッフルームに掲示しており共有しているが、話合いの場を設けてはいない</p>	○	<p>運営上の方針や目標等を具体化し日常的に話合い、ふり返る場面を設け取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議にて御家族や地域の方々に理解を得られる様努力している。又、町内会へ入会している。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>玄関まわりや建物の周囲を親しみやすい雰囲気作りに取り組み、散歩時には気軽に挨拶を交わしている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に入会し会報や回覧板を通じて花壇作り、清掃等へも参加している。子供110番の家にもなっている行事には保育園児が歌やおゆうぎを披露してくれたり、避難訓練時には防災部長さんにも呼びかけを行っている。</p>	○	<p>情報交換を行い、積極的に働きかけて、多くの方々と交流を図れる様、今後も取り組んでいきたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の方を積極的に雇用し情報交換を行い取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>会議にて昨年の外部評価調査結果を報告、意義についての説明を行い自己評価表を全スタッフに記入してもらい改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議を定期的に行い、御家族の方や地域の方、地域包括支援センターの方に参加していただき、1階・2階フロアにて入居者様も参加されながら取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も定期的な開催を行い情報交換をしながら、サービス向上へつなげていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>サービスを提供する上で、疑問点や不明点等、その都度、市役所、区役所担当者に電話や足を運びサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>制度を利用されている入居者様もおり支援しているが、全スタッフが制度について学んではない。</p>	○	<p>会議や勉強会を開催し全職員へ周知できる様、取り組んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待についての勉強会を開催し理解を深め、職員一人一人が自覚し虐待防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>不安や疑問点については時間をかけ説明、話し合い理解、納得をして頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見、不満、苦情を言いやすい様、さまざまな場面で常に耳を傾け関係作りを行い反映させている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	御家族の来訪時には必ず近況報告、健康状態についても往診・受診簿を見て頂き説明、確認サインを頂いている。又、星の家便りを作成し、暮らしぶりの写真や行事予定等を載せ御家族に定期的に郵送し緊急性の高い事柄、遠方の方には電話にて、お知らせしている。金銭管理に関しては事務所にて、お預かり金個人ノート確認サイン頂いている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が意見、不満、苦情等を話しやすい環境、関係作りに努め意見箱を設置している。第3者機関へ電話相談出来る様、相談窓口を設置、見やすい所へ掲示している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティング開催し職員の意見や提案を聞く機会を設け、その他、いつでも横のつながりを大切に反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	経営者も含め、柔軟な対応が出来る様、調整している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職を最小限に抑える努力は行っているが、やむ得ない場合は利用者のダメージを防ぐ配慮をスタッフ間で統一し行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修を受ける機会を確保し、研修参加後は報告書・資料を全スタッフに目を通してもらいミーティング内でも説明しトレーニングへつなげている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者会議へ出席し交流の機会を持っているが、職員が同業者と交流を持つ機会は持っていない。</p>	○	管理者以外の職員も交流を持てる機会を確保したい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員との会話をする時間を持ち、業務上の悩みや体調面に気配りをし、働きやすい環境作りに努力している。また、親睦会などでストレスを解消できるように方策を採り入れている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>一人一人の状況を把握し、向上心を持ち働けるような努力を行っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>御家族様や他事業者さんからの相談が第1となる事が殆どであるが、必ず御本人に面談し、求めている事や不安なことを時間をかけて聞く様にしている。認知症が進行し自分の思いを訴えられない方についても表情等から汲み取れるように努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>電話、来訪、訪問し、時間をかけ聞き取り受けとめる努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容を傾聴し、把握、見極めながら、他のサービスの提案や利用方法などを説明させて頂いている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には必ず、ホーム内の見学や雰囲気を感じ取って頂き、来訪できない場合は、現在生活されている自宅や施設、病院を訪問し生活空間を大きく崩さないよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様が介護されるという思いではなく、職員と共に家事作業を行ったり、新聞やテレビ、歌等を楽しみ、昔の苦労話や暮らしぶりなどを談話しながら色々と学ばせて頂き支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時には、居間で御本人の生活状態をみていただき、行事等にも参加され御家族の思いも聞きいれながら、一緒に支え合う関係作りを築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会だけでなく外泊や外出等自由に行き来し、電話で話しもされ手紙・年賀状のやり取りで、より良い関係作りが築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	友人や知人の方と電話で話されたり、手紙や年賀状が届き、会話の中にも取り入れながら関係がとぎれないよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は入居者様同士の関係、御本人の性格を把握し孤立しないよう、日常生活の中で自然に支え合える様、関わりを大切にしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関わりが必要な方は少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人一人が個別ケアを心がけ、入居者様と密に関わりを持ち把握に努め、表現が困難な場合も日常の言動・表情等から読み取る努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に御本人・御家族・サービス関係者より細かい情報を聞き取り把握している。独居生活や、御家族と疎遠となられていた方については、御本人との会話や言動の中で把握できるよう努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の過ごし方、身体状態等、要観察しケース記録に記入し、申し送り・ミーティング等で スタッフ間情報を共有し把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人との会話を通じ、状況の把握に努め御家族の面会時、必要に応じ電話で話し合い 思いや意向を確認し、ミーティング等で職員間での意見交換を行い、意向を反映し作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎日、計画を実施し期間に応じて評価の見直しを行っている。また、変化に応じミーティングにて話し合い、新たな介護計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子を細かく観察し、ケア内容に沿って記録を残し、実施番号欄・変化や気づきの内容には斜線を引いたり、特記事項の項目を作る等工夫し職員間で情報の共有や介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物介助・通院介助、御家族様と一諸に食事をして頂いたり、泊まって頂いたりと要望に応じ柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	音楽演奏や踊りのボランティアさんの利用、消防署の方々による救急法、避難訓練等、地域資源と協力しながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他のサービスを利用するために支援はしていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員さんに参加してもらっているが、現在、権利擁護や長期的なケアマネジメント等の協働は行っていない。	○	今後、入居者様の必要性に応じ協力体制を作っていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られなかったりかかりつけ医ら事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	かかりつけ医による、月2回の往診、協力病院での受診、訪問歯科医も利用し、適切な医療を受けられるように支援している。また、かかりつけ医は24時間対応可能となっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的に脳神経外科受診し、MRIや長谷川式簡易知能評価スケールを受け、認知症の進行状態の把握を行い支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保し、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、病院へ足を運び医療機関と情報交換を行い、御家族・ホーム職員も含め、早期退院へ向けて取り組んでいる。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	御本人の終末期の希望を早い段階より聞き、御家族・主治医・看護師などの協力のもと スタッフ一丸となり、ターミナルケアを行った。	○	重度化、終末期における指針があり、今後も御本人・御家族との話し合いを持ちながら、取り組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者様の状態の変化に備え話し合いを常に行い、事業所の出来ること、出来ないことを見極め主治医と共に、日々をより良く暮らせるようチームとして支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームより、別の居宅へ移り住むケースはなく、ほとんどが、医療機関へ入院となっているが、御本人が大切にされている物は状況に応じ使用継続して欲しい事、また、自宅からグループホームへ移られる際は、本人の自宅へ訪問し急激な変化がない様、雰囲気作りを心がけダメージを防ぐ様にしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>常に個々の違いの尊重、さりげない介助、御本人の返答能力に応じた質問方法など気を配り、個人情報の取り扱いには、スタッフ間で御本人がわからない様にイニシャルで申し送り等行っています。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々に合わせた働きかけ、説明の仕方ですぐ待ったり、見守ったり、自分で決め納得しながら暮らせるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個々のペースを大切に、意見を言いやすいよう、さまざまな場面で意思表示が出来る様 支援しているが、その日の希望全てに対応は出来てない日もある。</p>	○	<p>外出希望、毎日の入浴希望者にスタッフの人数確保が出来ない時間帯があり、今後の課題である。 (認知症状が重度化しており難しくなっている。)</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に訪問理美容室を利用されている方、昔から行きつけの美容室に御家族様の協力で行かれています。おしゃれが好きな方は、毎日、お化粧されたりアクセサリーを楽しまれています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人一人の好きな物、嫌いな物を把握し、食べられないメニューがある時は、代替の物を準備している。また、出来ること、出来ないことを把握し楽しい雰囲気の中で五感に働きかけながら支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒希望者には、主治医と御家族様との相談の上提供している。オヤツや飲み物、好みの物も体調を考慮しながら日常的に楽しめるよう支援している。	○	なつかしい手作りおやつを入居者様と一緒にできる機会を増やしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、一連動作の出来ない部分はどの場面なのか 要観察を行い安易なパット装着は避け、気持ちよく排泄出来る様支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一日おきの入浴を実施しているが、希望やタイミングに合わせた入浴ができていない。	○	毎日の入浴を希望されている方がいるも、会社の経営上難しく、国の報酬アップがなければ取り組みが難しい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の状況に応じて、居室で休んで頂いたり、ソファーにて休息の時間を取って頂いたり、夜間もそれぞれの時間帯で就寝、安眠されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	御家族の方から得た情報や御本人の意見を取り入れ、一人一人の出番や楽しみごとを、思い出せる様、家事全般・ゲームや歌・軽体操等場面づくりの支援を行っている。	○	個人の趣味が活かされていない場面もあり、今後、取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様が、自分でお金を持つことの大切さを職員はわかっており、希望や力量に応じて本人が行えるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬季間は天候にもより、外へ出かける機会が少なく、入浴日も職員の人数確保が難しく希望に添った外出は出来ていないが、極力希望に応じて散歩に出かけるられる様支援している。	○	身体機能の維持の為に、外出や買い物の機会をもう少し増やしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事を計画、個別に希望を取り入れ花見、外食、ドライブ等、外出の機会を作り、御家族様の協力もあり取り組んでいる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	御家族や友人に希望に応じて電話をしている、手紙や年賀状のやり取りができる様支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族の来訪は多く、居間や居室にて居心地よく過ごせる様支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議にて身体拘束について勉強、資料を全職員に配布し理解、認識され身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	ベットの転落防止の為に、柵の使用や窓より身を乗り出す方の転落防止、ストッパー設置、御家族様より同意を頂き使用している。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を理解し、夜間は防犯の為に、玄関のみ施錠している。	○	出入り口に風鈴を設置し外出傾向が強い入居者様の把握に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	誇りや、プライバシーを損ねないよう居室で過ごされている時の様子を確認し、夜間帯は2時間おきの巡回を行い、安全確認を実施している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミやカミソリ等、御本人の使用能力に応じ自己管理して頂いている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット事故報告書作成活用し、取り組んでいる。	○	転倒が多くなられた入居者様にはセンサーマット等利用し、防止に努めている。今後も全スタッフで話し合う場を設けながら、事故防止へ取り組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作成し、消防署職員の方に来訪して頂き、救急救命の講習、訓練の実施を行ったが、定期的には行えていない。	○	あわてず対応出来る様、継続的な訓練を行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議にて、地域の方々に協力依頼し働きかけてる。入居者様も含め避難訓練を行った。	○	今後も定期的に訓練を行い、御家族の方、地域の方の協力を得ながら取り組んでいきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人一人の身体面を把握し、予測できるリスクについて、早めに御家族に説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックはもちろんの事、スタッフは毎日の顔色、言動の変化に気づける様、ケース記録に残し情報を共有している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ケースファイルに処方箋を保管し、内容の変更があった際は医療ノート・連絡ノート・業務日誌等利用し、注意すべき事項を口頭でも伝え、症状の変化に早期対応出来る様努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	職員は便秘が及ぼす影響を理解しており、水分摂取量に気をつけ、個々に合った運動を取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後及び就寝前、起床時、口腔ケアの声かけを行い、一人一人の力量に応じた介助方法にて対応し、義歯装着者の方は義歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。定期的に歯科医往診にて状態をチェックしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎月、体重の増減を把握し、食事量の調整、好きな物・嫌いな物(飲水内容についても)を確認し、代替えの物を提供し食事量、飲水量等個人の状態に応じチェックしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年行い、定期的な血液検査、手洗い後の消毒、外出後のうがい手洗いは、職員含め徹底している。手すりや椅子も消毒液を使用し拭き掃除を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	2日分で食べられる量を購入、食べ残しは必ず直ぐに処分する、毎日、まな板、布巾の漂白、除菌、キッチン内や床も拭き掃除し、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりや建物の周囲に花を置き、冬期にはイルミネーション等で季節を感じてもらえる様工夫し、家庭的な雰囲気づくりに配慮し入居者様や御家族様、近隣の方との話題づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、各フロアー、居室等、季節感を感じられる飾り付け照明にも気配りし、テレビや音楽にも気を配り、トイレや台所は清潔を保ち臭いにも気をつかいながら居心地よく暮らせる様配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーや一人掛けイスの配慮を状況に応じかえたり、一人になれたり、気の合う者同士で過ごせるスペースを確保している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、御家族には、なるべく使い慣れた物、見慣れた物を持ち込んで頂くよう、依頼している。また、入居の前に生活空間を極力確認し大きな違いがない様に、居心地よく 過ごせる工夫をしている。	○	ADLの低下、認知症の進行に伴い、各入居者様に応じて、安全面の工夫、混乱要素とならない様に物の配置がえを行い取り組んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各フロアーの換気、温度調整はこまめに行っている。湿度対策とし洗濯物や濡れたバスタオル干しを実施している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下や階段への手摺りの設置、入居者様の身体機能の低下に合わせて、家具等の位置の工夫や浴室内での補助具を個人個人に合わせた物を使用し、自立した生活を送れるよう工夫している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>御入居者様の「できる事、できそうな事」には、極力手を出さず、見守ったり一緒に言い待つ姿勢を崩さず、常に力を引き出せるような場面づくりを行っている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関周りに季節の草花を置き、小さな畑だが野菜などを育て収穫をしている。夏場には、玄関にベンチを設置し日光浴や散歩を楽しんでいる。</p>		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<del>①ほぼ全ての利用者</del> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<del>①毎日ある</del> ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<del>①ほぼ全ての利用者</del> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 <del>②利用者の2/3くらい</del> ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 <del>②利用者の2/3くらい</del> ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 <del>②利用者の2/3くらい</del> ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<del>①ほぼ全ての利用者</del> ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<del>①ほぼ全ての家族</del> ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 <del>③たまに</del> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）スタッフ一人一人が認知症の症状をよく理解していて、入居者様のことを真剣に考えながらアットフォームな雰囲気作りに努め、そこに信頼関係が築きあげられていると思います。御家族様来訪時には、居間で過ごされる方が多く、又、行事等にも参加される事が多くなっております。「ここを選んで本当に良かった」との言葉を励みに、入居者様の笑顔がいつも絶えないグループホームを維持したいと思っています。

《アピールしたい点》

- 1、入居者様・御家族様が「このホームを選んで本当に良かった」と言って下さること
- 2、入居者様の表情が良く、とても、明るい
- 3、清潔で明るく、危険性の少ないホームである
- 4、食事のメニューが豊富
- 5、スタッフ間のチームワークがとられていること